

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「質の高い介護」のために「居場所あおのの理念」「三井福祉会職員信条」「職員信条の具体的な10ヶ条」が有機的につながった、非常にしっかりとした理念がつけられています。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所への掲示、職員への配布により周知するとともに、具現化するための話し合いが月1回のミーティング時に行われています。		
2-2	3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族や地域への理念の浸透は現状できていません。		運営推進会議に参加が予定されている町内会長の協力、回覧板の活用、家族・地域住民が参加できる行事などを活用して、繰り返し事業所の理念や取組みを理解してもらう活動を期待します。
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会への参加、事業所新聞の回覧、地域の実習生やボランティアの受け入れ、事業所主催の行事への地域住民の参加など、さまざまな形で地域との交流が行われています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の評価は管理者の主導で行われ、職員の理解や参加に課題が残ります。		今回の評価後の改善への取り組みや、次回の評価の際は、自己評価の段階から職員を巻き込んだ全職員での取組みを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は現在まで行われていません。		4月に予定されている運営推進会議では、報告のみではなく、構成員からさまざまな意見がいただけるような工夫が行われることを期待します。
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の介護保険課の担当者、地域包括、市から委託を受けたサービス評価員と連携を図り、意見交換等が行われています。		
6-2	11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング時に虐待防止に関するケース検討や意見交換が行われていますが、高齢者虐待防止関連法の理解やマニュアルの整備が現状ではできていません。		知識を標準化するためのマニュアルの整備と高齢者虐待防止関連法に関する学習の機会づくりを期待します。
4. 理念を实践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時、電話での利用者の状況報告は、全職員が情報を共有し対応できる状態であり、頻繁に行われています。また、金銭に関する報告や行事の際の写真の送付も行われていますが、職員の異動に関する報告は行われていません。		事業所新聞を活用して、職員の異動に関しても、家族等へ知ってもらう機会がつけられることを期待します。
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所内の苦情箱・意見箱の設置や、面会・電話連絡時のコミュニケーションにより、意見の収集が行われていますが、家族会・アンケートなどの新たな取り組みや収集した意見の反映方法の確立などに課題が残ります。		さまざまな方法で意見の収集を行い、収集した情報を運営に反映させる方法を検討し、実行されることを期待します。
8-2	16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者の個別に話をする機会やミーティング時に意見を言いやすい雰囲気づくりへの配慮により、各職員から多くの意見がだされる状況がつけられています。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	退職や異動の際の対応として、記録による日常的な情報の共有や新しい職員が慣れるまでの間のサポートなどがしっかり行われ、利用者へのダメージを防ぐ配慮が行われています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
9-2	18-2	マニュアルの整備 サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている。	必要なマニュアルは作成されていますが、見直しに不十分な点があります。		全職員を巻き込み、現状に即した活用しやすいマニュアルになるよう、順次見直しが行われることを期待します。
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者を含めた職員間のコミュニケーションが良好なため、必要があれば遠慮なく相談や質問ができる職場環境ですが、計画的な研修の実施は行われていません。		限られた時間を有効に活用するためにも計画的な研修の実施を期待します。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国組織・新潟県の同業者ネットワークには参加していますが、地域の同業者との連携が現状できていません。		市のグループホームの会議などを活用し、勉強会や交流会など、サービスの質の向上への取り組みへとつながる関係づくりをされることを期待します。
11-2	21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	管理者と職員、職員間のコミュニケーション、本部のサポート、交代での休憩の確保など、職員のストレス軽減のための取組みがされています。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前の面接、見学、利用者と共に過ごす時間をつくるなど、馴染むための取組みが行われています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	介護するという意識ではなく、家族と同じような存在という意識を全職員が共有し、利用者に相談をしたり、共に笑い悲しむなど、生活を共にし、何でもはっきり言ってくれる関係が構築されています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
13-2	28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	頻繁なコミュニケーションを土台として、家族と事業所が協力して本人を支える良好な関係が構築されています。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族や本人との会話から得た希望や意向の情報は、送りノート・介護ノートに記入し、毎朝夕のミーティングで確認を行い、共有されています。		
14-2	34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始前に事前調査を行い得た情報は個人ファイルに綴じ、全スタッフで共有がされています。また、日々の会話から得た情報は送り・ケース記録に記入され、その中から重要な情報をその日のフロアリーダーが生活記録に転記し、ケアプランへの反映が行われています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の情報を全職員が参加する月1回のカンファレンスで集約し、ケアプランに反映されています。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリングを基に、3ヶ月に1回の定期的な見直しと状態変化時に介護計画が作成されていますが、全ての職員が介護計画を強く意識している状態にまでは至っていません。		全職員がモニタリングに参加し、計画作成責任者と共に介護計画を作成することで、介護計画を意識したケアが行える状態になることを期待します。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院介助など、本人や家族の要望に対して、きめ細やかに柔軟な対応が行われています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望する主治医の受診を基本として、手紙による主治医への状況報告やインフォームドコンセントの説明書をコピーすることで、受診結果の情報収集が行われています。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時にグループホームの中間施設としての機能と重度化や終末期の対応に関する説明が行われています。医師との連携や事業所での対応方法など、今後の起こりうる事態への検討に課題が残ります。		医師との連携、事業所での対応方法を全職員で検討し、万全な準備を期待します。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報に関する同意、記録の管理、入浴の同性介助、排泄介助の声かけなど、しっかり配慮が行われており、職員へ大しても、ミーティングにおいてプライバシーへの配慮の周知徹底も行われています。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人ひとりのその人らしい生活を把握することに努め、起床・就寝、入浴、レクなど無理強いをすることなく、希望が尊重されています。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	業者による給食サービスを利用していますが、食事の準備や片付け、敷地内の畑の収穫物を取り入れるなど、食事を楽しむための配慮が行われています。また、誕生日や行事の際は給食サービスを中止して希望のものが出されています。		
22-2	56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンの把握と定期的な誘導により、日中のオムツの使用を減らす試みが行われています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ゆず湯・菖蒲湯・入浴剤、寒い日は脱衣所を暖めるなど、入浴を楽しむための配慮が行われています。また、入浴を拒否する利用者への対応は、成功事例を職員間で共有することで、スムーズな誘導が行えるよう努力されています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の希望と能力に応じて、食事作り・掃除・畑仕事などの役割や、編み物・裁縫・味付け・季節行事の準備などは職員が利用者から教わりながら共に行われています。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日の散歩(近所の神社・お寺・池など)、月1回のドライブ(花見・外食など)の他、帰宅願望がある利用者を家に連れて行き納得してもらうなど様々な取り組みが行われています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
25-2	65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアの実践、ミーティングでの話し合いはしっかりされていますが、マニュアルの見直しや勉強会に関しては課題が残ります。		事業所の実態に即したマニュアルの見直しや、勉強会を通じて職員の理解を深める取組みを期待します。
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中の玄関は開放し、その他のリビングなども極力開放するように努めています。徘徊に関しては、利用者の傾向把握と近隣の協力を得て対応が行われています。		
26-2	69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒアリ・ハット報告書、事故報告書をもとに、ミーティング時に事例検討を行い、事故防止方法の学習、共有が行われています。		
26-3	70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救命救急法の訓練は現在まで行われていません。		予定されている救命救急法の訓練の他、さまざまな状況を想定した訓練を定期的実施することを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルの整備は行われていますが、避難訓練は現在まで行われていません。		予定されている救命救急法の訓練の他、さまざまな状況を想定した訓練を定期的実施することを期待します。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	業者による給食サービスを利用しているため、栄養バランスのよい食事になっています。また、特別な対応が必要な利用者に関しては、医師からの指示や市の栄養士に相談し対応されています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	装飾に関して、多すぎるのではないかと心配されていましたが、センス良く飾られているため、嫌な印象は受けませんでしたし、壁が白いため、温かさを感じられるためにも、必要に思います。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や仏壇など、一人ひとり個性が尊重された部屋になっています。		